

令和7（2025）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修② 実施報告

実施日：令和7（2025）年7月24日（木）

○ 説明「遊びの中で学ぶ子どもについて」

栃木県幼児教育センター 幼児教育指導員 中山 昌樹 氏

中山氏からは、御自身が経営する認定こども園での子どもたちとの関わりや具体的なエピソードを交えながら、子どもが遊びを通して自ら学び、発達や社会性、自然との関わり、言語・数的理解を深めていく過程について説明がありました。その中で、子どもにとって、遊びが生きる力を育むために重要であることを強調されました。また、「孤育て」や「ワンオペ育児」といった現代の子育て環境の課題にも触れ、保護者との関係づくりにおいては、PET（親業）に基づく「能動的な聞き方」や「わたしメッセージ」などのコミュニケーション技法を紹介されました。

さらに、「こども基本法」や「はじめの100か月の育ちビジョン」などの子ども政策にも言及され、受講者は、子どもとの関わりや自身の子育て経験などを重ねながら、幼児期の育ちを支える基本的な考え方への理解を深めることができました。



○ 事例発表・座談会「家庭教育オピニオンリーダーの活動」

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会 会長 林 美幸 氏 副会長 今井 由佳 氏
研修部長 高松 真理 氏

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の活動について、会長の林氏から事例発表がありました。同連合会は昭和64年に設立され、県内7ブロック・30支部において地域に根ざした活動を展開していること、主な活動には、子育て広場や相談支援、アウトリーチ支援、就学時検診時の親学習プログラムなどがあり、家庭教育の推進と地域支援を目的としていることが紹介されました。各支部では、親子レクや世代間交流などの楽しい活動を通じて地域のつながりを深めており、信頼と助け合いの地域づくりを目指しているとのことでした。

後半の座談会では、林氏のファシリテートのもと、受講者が本研修を受講したきっかけや、家庭教育支援・地域での活動への思いなどをざっくばらんに語り合いました。林氏、今井氏、高松氏からは、地域での具体的な活動内容が紹介され、受講者はオピニオンリーダーとしての活動への意欲を高めることができた様子でした。

事例発表および座談会を通じて、受講者はオピニオンリーダーの活動について理解を深めるとともに、今後の自身の役割や地域との関わり方について考える貴重な機会となりました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・中山先生の講話で、心の振り子についての例えがとても分かりやすかったです。子どもたちからの発想をうまく拾っていくことが深い学びや主体性につながるなと思いました。
- ・地域で、たくさんの人たちが関わって、子どもたちや親を支えていることに気付きました。
- ・参加された皆さんが、各地区で様々な活動をされていることを知りました。共に学びを得ながらスキルアップして、今後に生かしていきたいです。